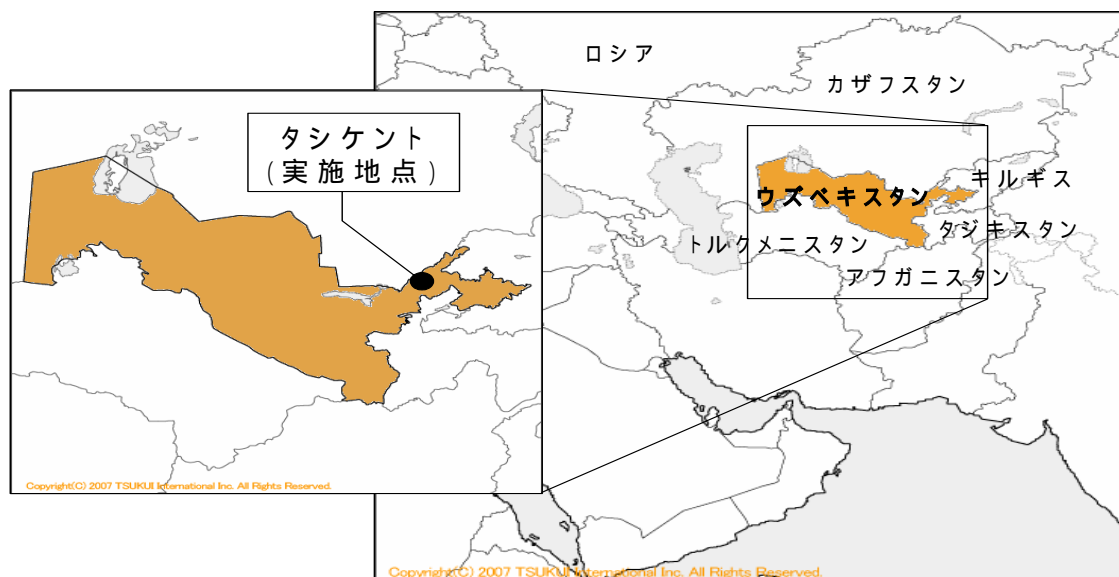


ウズベキスタンにおける省エネモデル事業の概要

1. ウズベキスタン共和国の概要



- (1) 面積 : 44.74 万 km^2 [日本の約 1.2 倍]
- (2) 人口 : 2,780 万人 (2008 年) [日本の約 22 %]
- (3) 首都 : タシケント (人口 218 万人、2008 年)
- (4) 言語 : ウズベク語 (公用語) ロシア語
- (5) 主要民族 : ウズベク人(80%)、ロシア人(5.5%)、タジク人(5%)、カザフ人(3%)
- (6) 通貨単位 : スム (1 スム 0.07 円)
- (7) 電力事情 : 発電電力量 476 億 kWh (2005 年) [日本の約 5 %]
電源構成は、天然ガス火力 65%、石炭火力 21%、水力 14% (2005 年)
- (8) 気温 : 最高気温 36 (7 月の平均最高気温)
最低気温 -1 (1 月の平均最低気温) [タシケント]

2. タシケント熱電併給所の概要

- ・運 開 年 : 1938 年
- ・従業員数 : 約 500 名
- ・役 割 : タシケント市内への温水、電気の供給および周辺工場への蒸気供給
- ・主要設備
 - 蒸気ボイラ 5 台、温水ボイラ 7 台
 - 燃 料 : 天然ガス
 - 蒸気タービン 1 台
 - 出 力 : 2 万 2,500 kW

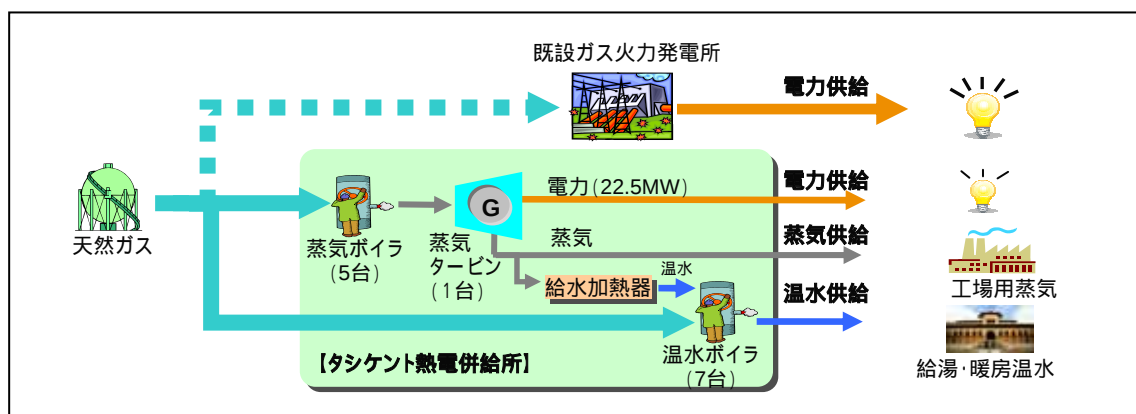


3. 本プロジェクトの概要

(1) 事業概要	既設熱電供給所に高効率ガスタービン・コジェネレーション設備を導入し、省エネルギーを図るモデル事業（両国政府による共同事業）
(2) 実施場所	ウズベキスタン共和国タシケント市（首都）
(3) 設備出力	電気出力（ガスタービン）：2万7,000 kW 熱供給量（排熱回収ボイラ）：37 Gcal/時（電気出力4万3,000 kW相当）
(4) 実施内容	（日本側）機器の設計・製作・輸送。相手国側が実施する建設工事・試運転・実証運転への技術指導 （相手国側）土木建築工事、機器据付工事、試運転、実証運転
(5) 工 程	土木着工：平成23年度 運転開始：平成25年度

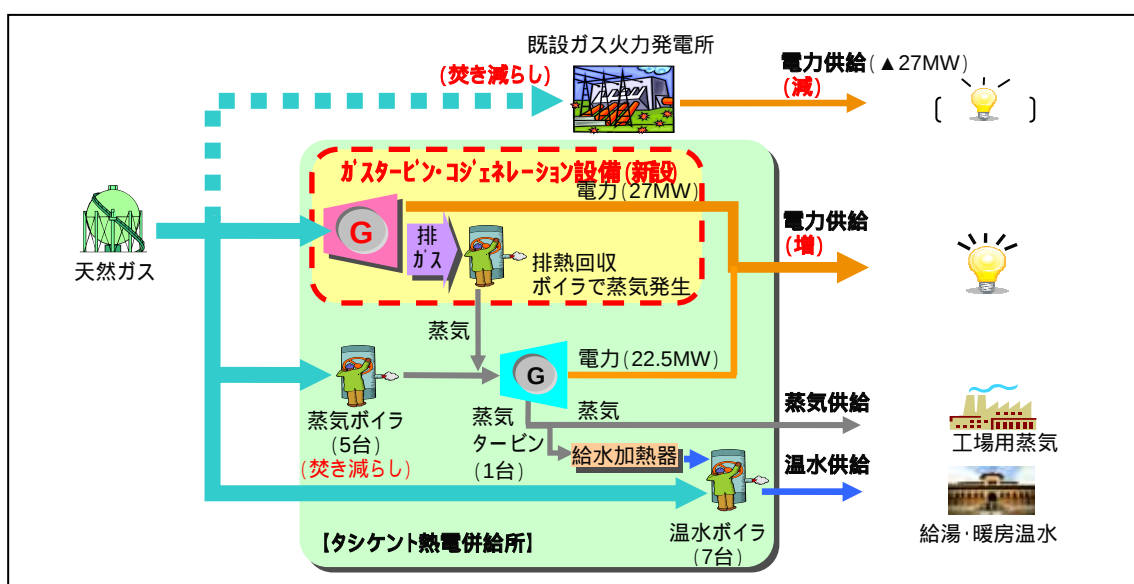
<設備導入概念図>

【導入前】

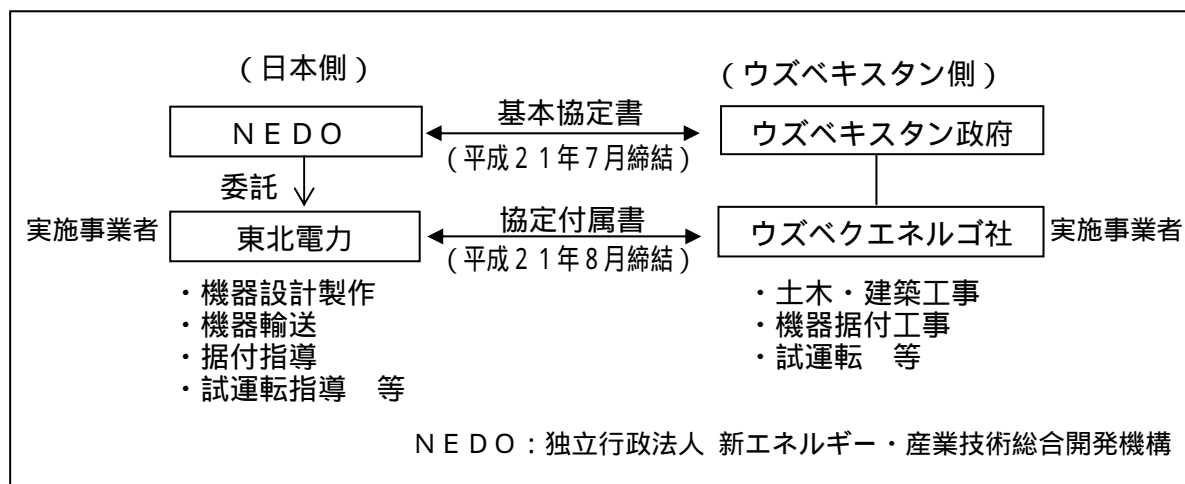


（G：発電機）

【導入後】

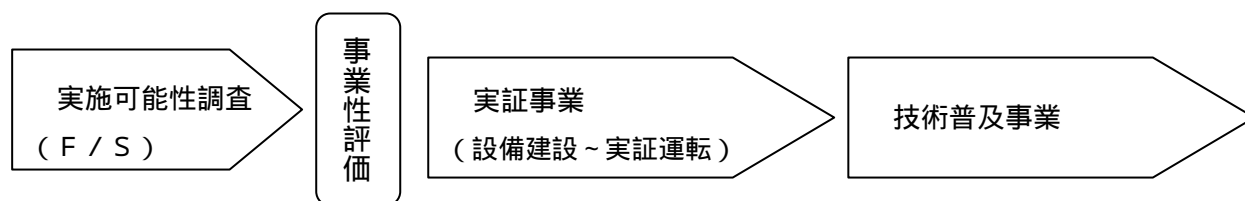


4 . 事業の実施体制



(参 考)

「省エネモデル事業」は、日本において既に実用化されている省エネルギーに関わる技術を開発途上国等に導入してその有効性を実証し、その技術を定着、普及させることを目的に、N E D O が実施しているもの。以下の三段階に分かれている。



以 上